

平成30年度第2回八千代市子ども・子育て会議議事録

- 開催日時 平成30年12月14日（金）午後2時00分～午後3時30分
- 場 所 八千代市役所 旧館4階第1委員会室
- 議 題 第二期八千代市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について
- 出席者 委 員 中山 哲志委員（会長）， 藤田 紀恵子委員， 古澤 拓郎委員，
武田 啓子委員， 井元 紀行委員， 戸巻 聖委員， 丸山 純委員，
柳 牧子委員， 柿沼 芳枝委員， 田中 宏行委員， 塩田 恭子委員
- 八千代市 〈子育て支援課〉 齊藤課長， 市原副主幹， 澁谷主査，
江波戸主査， 加藤主事
〈子ども保育課〉 平田課長， 石橋主査， 後藤主事
〈事 業 者〉 株式会社 名豊
- 公開または非公開の別 公開
- 傍聴者 0名

【議事録】

1 開会

- 事務局 それでは、定刻よりは早いのですが、皆さんお揃いなので始めたいと思います。ただ今から平成30年度第2回八千代市子ども・子育て会議を開催いたします。委員の皆様、本日はお忙しい中にも関わらずご出席いただきましてありがとうございます。私は、この10月1日付で異動して参りました市原と申します。議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。それでは、本日の会議の説明をさせていただきます。
- 本日は、中島委員、野田委員、別府委員、池田委員がご都合により会議を欠席いたしておりますが、出席者数が委員定数の半数以上に達しておりますので、「八千代市子ども・子育て会議条例第5条第2項」の規定により、会議として成立していることをご報告いたします。
- また、本日の会議は、八千代市審議会等の会議の公開に関する要領第4条各号の規定により、個人に関する事項等を審議する会議に該当しないことから、同条の規定により会議を公開としております。なお、会議の公開に際しまして、会議録を作成し、ホームページ等での公開を予定しておりますので、あらかじめご了承ください。
- また、本日は、本市のニーズ調査の受託業者である株式会社名豊の担当の方に事務局として同席いただいておりますので、併せてご了承ください。
- それでは、「八千代市子ども・子育て会議条例第5条第1項」の規定により、会議の議長は会長が務めることとなっておりますので、中山会長、議事の進行をお願いいたします。
- 会長 皆さんこんにちは。それでは議事に入る前に、会議資料の確認をいたしますので、事務局からお願いいたします。
- 事務局 はい、それでは、本日使用する資料の確認をさせていただきます。まず「会議次第」はございますか。大丈夫でしょうか。次に資料30-2-1「就学前児童 八千代市子ども・子育て支援に関するアンケート（ニーズ調査）」はございますか。次が資料30-2-2「就学児童 八千代市子ども・子育て支援に関するアンケート（ニーズ調査）」。次に資料30-2-3「第2回八千代市子ども・子育て会議における議題の主な論点等」。こちらも大丈夫でしょうか。以上が、本日使用する資料となります。資料の不足等がある方はいらっしゃいませんか。それでは進行のほう、よろしくお願ひします。
- 会長 はい、今確認がとれましたので、これより、議題に入らせていただきます。今確認しました資料にありますように、本日の会議は、主な議題は調査票に関するもので、概ね1時間程度、開始が2時ですので大体3時頃終了するのではない

かと思えます。3時を閉会の予定として進めますので、議事進行のほうよろしく
お願いいたします。でははじめに、「八千代市子ども・子育て支援事業計画に係
るニーズ調査について」事務局より説明をお願いいたします。

2 議題

事務局 はい、それでは、議題の説明をさせていただきます。座ったままで失礼いたしま
す。まずは、課題の説明に入る前に、ニーズ調査の概要について、説明させてい
ただきます。今回の調査は、現行の「八千代市子ども・子育て支援事業計画」の
計画期間が、来年度末をもって終了いたしますことから、平成32年度、202
0年度ですね、からの第2期目の「八千代市子ども・子育て支援事業計画」の策
定に向けて、保育所や学童保育所などの量の見込みや確保方策を算定する上で
必要となる市民ニーズを把握するために実施するものでございます。調査対象
につきましては、市内の0歳～小学校4年生までのお子さんを持つ保護者を対
象に実施するもので、調査対象件数につきましては、0歳～5歳までの就学前児
童が2,500件、小学校1年生～4年生までの就学児童が1,500件となっ
ております。この調査対象件数、計4,000件につきましては、統計学的な考
え方から、調査の信頼度や回答誤差を前回調査と、平成25年度に行った調査と
同程度に設定し、0歳～小学校4年生までの人口おおよそ2万人から、必要とな
る必要標本数を算定したもので、結果的として前回調査と同様、必要標本数を
4,000件としたところでございます。また、調査対象の抽出につきましては、
前回と同様に、今年度11月末時点での住民基本台帳から、「大和田地区」、「睦
地区」といった市内7圏域ごとに、就学前児童、就学児童からそれぞれ無作為に
抽出いたしました。ただし、今回の調査では、調査対象に偏りをなくし、調査の
精度を上げるため、各圏域で、就学前児童と就学児童の区分のみで抽出するだけ
ではなく、0歳～小学校4年生まで10個の年齢階層に分けて、各圏域で、その
年齢階層ごとに人口割合などから、必要な標本数を設定いたしました。この必要
標本数に基づき、各圏域で、各年齢階層から無作為に抽出を行い、調査対象とな
った世帯に対し、来年1月の初めから2月1日までの予定で、ニーズ調査を実施
することとなりました。

それでは、このニーズ調査で使用いたします、本日の議題でもある調査票につい
て説明させていただきます。まず、ニーズ調査は、就学前児童と就学児童で分け
て実施いたしますので、調査票自体も就学前児童と就学児童で分けて作成して
おります。調査内容につきましては、国から調査票のイメージなど概ねの内容が
示されており、それに基づき各自治体の実情に合わせて作成する形となってお
ります。国が示す設問の中には、保育所や学童保育所の量の見込みなどの算定の
際に必要となる必須の設問と、その補正值や子育て支援施策の参考にするため

の任意の設問があります。その他、自治体の実情に合わせて自治体独自に加える設問から調査票は構成されております。

それでは、就学前児童の方の調査票をご覧ください。各ページを見ていただけるとおわかりになると思うのですが、各設問の頭に「●」などの記号が付いておりますが、「●」が量の見込みの算定などに必要な必須の設問となり、「○」が任意の設問、「□」が本市独自の設問を表しております。この記号に関しましては、製本する際に削除してから調査対象の方に送付することになります。

このように、ニーズ調査に関しましては、主に次期計画の量の見込みの推計に当たって必要となる事項を、把握するために行う調査となりますので、本市といたしましては、設問も必要最低限に絞って、次期計画の策定にあまり影響を与えないような設問につきましては極力省いて、回収率の向上や回答者の負担軽減に配慮して作成しております。

ちなみに、前回の調査票の回収率についてですが、就学前児童と就学児童を合わせて約57%でありまして、今回は60%程度を目指しているところでございます。4,000件の内の、3%アップでございますので、120件ほど回収数を増やさなければならず、難しいところではございますが、達成できればと考えております。

では、実際どのような取組を行えば回収率の向上に繋がるのかと申しますと、これは正直、運によるところもございますが、一般的には、回収率を上げるには、

「調査目的を明確化すること」、「設問数を少なくすること（設問の簡素化）」、「質問内容をわかりやすく、回答をしやすくすること」、「回答の督促を行うこと」が、回収率の向上に寄与すると言われております。では実際に、本市ではどういうことを取り組んだかと申しますと、調査目的の明確化につきましては、調査票の表紙で、「保育所や学童保育所などの必要な整備量等の把握に必要」という部分を強調し、この調査が保育所等の整備量を決めるために、活用されることがわかるようにいたしました。設問の簡素化につきましても、子ども・子育て支援事業計画の策定に影響を与えない設問であったり、前回調査の報告書において、集計で使用されていない設問についていくつかございましたので、そういったものは削除し、その結果、設問数を、就学前児童では60問から54問に減らしました。ページ数でいうと、19ページから14ページに削減しました。就学児童では、40問あったところを30問に減らし、ページ数を15ページから9ページに削減いたしました。削除した主な設問につきましては、「子育てを相談できる相手」を問う設問や、「離職理由」、「一時預かりを希望する際の預け先の規模」といったもの、その他「育休・短時間勤務制度」等を問う設問などは、子ども・子育て支援事業計画の策定に影響を与えないことから、本市の調査票からは除いております。それとは逆に、新たに追加した設問もありまして、就学前児童です

と6ページの間23～25の質問と、13ページの間51、52といったところを新たに追加したところがございます。こういった結果、実際に、回答に要する所要時間は、就学前児童でおよそ20分、就学児童で10分ほどかかると見込んでおります。

次に、質問内容のわかりやすさや、回答のしやすさにつきましては、イメージになってしまいますが、調査票の紙面いっぱい文字や表の罫線があったり、太文字や下線で強調する部分が多いと、視覚的に全体的に真っ黒な、ゴチャゴチャした印象になりますので、そこは可能な限り、表を詰めるなどして余白部分を多くしたり、強調する部分は極力少なくするなど工夫し、一番見ていただきたい設問番号と設問が一番目立つように変更したところがございます。それから、以前ですと、関連する設問は枝番でふられている設問があったのですが、それを一目で設問番号がわかるように、全て通し番号に変更しました。他にも、設問の注意書きなどが設問中に書かれていたりしましたので、そこは設問とは別で記載することで、可能な限り、設問が2行以内に納まるように工夫いたしました。また、回答の選択肢も極力短めの文章にして簡素化を図り、子育て関係の事業ではよく「教育・保育」という言葉が使われますが、これも「幼稚園や保育園」と修正するなどわかりやすさに努めたところがございます。

その他、回答の進め方に関しまして、「○○と答えた方に伺います」という設問が、結構、調査票の中で出てきますが、これにつきましても、以前は「問○○で1の利用しているに○を付けた方に伺います」というような説明だったものを、これだと一旦、前に戻って何を利用していたのかを確認しなければならないので、こういったものも可能な限り、前に戻って確認しなくても他の設問に答えられるような表現に工夫いたしました。

続いて、回答の督促につきましては、回答の締め切り2月1日の10日前を目途に、一度お礼状を兼ねた督促状を調査対象の方に発送する予定でございます。

このような取組で、回収率の向上や回答者の負担軽減に努めたところがございます。

最後に、調査票の設問の構成について説明させていただきます。資料30-2-1「就学前児童」の調査票をご覧ください。

1ページ目～3ページ目の間11までが、量の見込みの算定に必要となる、おおもとのデータを作るための設問になりまして、保護者の就業状況を、家庭類型ごとに細かく分類して使用するものになります。次の間12～6ページ目の間25までが、幼稚園や保育園などのニーズを把握するための設問となります。次に間26～7ページの間31までが、地域子育て支援事業のニーズの把握に必要な設問となります。次、8ページの間32と間33は休日保育等のニーズの把握をするためのものになります。間34～9ページの間37までが、病児保育

のニーズ把握に必要な設問になります。問38～10ページにかけては、一時預かり事業やショートステイのニーズを把握するための設問となります。11ページの間43、問44が就学前児童の将来の放課後の過ごし方を聞く設問になっております。12ページ～13ページの間50までが、育休の状況を確認し、量の見込みの補正值などとして活用するための設問となります。問51から最後まで設問が、子育て支援施策の検討の際に活用できる設問となります。

次に、就学児童の調査票をご覧ください。3ページ目の問11までは、就学前児童と同様になります。問12～5ページ目の問17までが、学童保育所や放課後の過ごし方のニーズを把握するための設問となります。6ページ以降は、基本的に就学前児童と同様になりますが、就学児童を対象とした事業が少ないため、回答の選択肢も少なくなっております。

以上が、議題の説明となりますが、配布資料の30-2-3、こちらの主な論点等を参考にいただきまして、ご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

会長 はい、ご説明ありがとうございました。

今、説明がありましたように、今日の議題はこのアンケート等の内容に関することですが、その狙いはニーズ調査として、このアンケートの冒頭において書いてあるとおり、事業として平成32年度から始まる、5か年計画に関係する、次期子ども・子育て支援事業計画の策定に必要な調査であるというのが第一前提であります。そのために調査をしっかり行いたい、その調査の方法として様々な工夫を行った。資料の30-2-3にある論点のところを見ていただくと、調査票設計に当たっての前提、様々なことが書いてあって、議題の主な論点がかかれております。読み上げはしませんが、この辺りを本日出席の委員の方から求めたいということです。結果的に調査の回収率60%を目標に、実際に多くの市民がどう考えているのか、回答する保護者がどう考えているのか、その情報を入手したい。そのためこの調査では、こういった工夫が必要であるとか、そういうことがあれば議論をしていきたいと思っております。これからフリートキングになる訳ですが、まず本日の会議の前に委員の方々に事前に何か問題があれば事務局の方にお知らせいただきたいということだったのでありますが、それについてはどうだったのでしょうか。

事務局 特に委員の皆さまからは事前のご質問等はございませんでした。ただ、市の方で、お子様をお持ちのパートの方が何名かいらっしゃって、その方に事前にアンケートを行ってもらった結果、何点か修正すべき点が見つかり、こちらで報告させていただきますので、それについてもご意見をいただければと思います。

まず、就学前児童の調査票を見ていただいて、こちらの表紙に調査の協力をお願いというところで、目的が書いてあるのですが、保育所や学童保育所と書いてあ

って、調査票の中では保育園と書いてあり、全くこういうものに携わっていない方だと、保育所と保育園は全く違うものと思われている方もおり、保育園と直したいと考えております。

もう1点は、《回答する前にお読みください》というところで★の上から3つ目、「この調査で幼稚園には、特に設定がない限り、認定こども園の幼稚園機能の部分も含まれます」というところで、認定こども園の幼稚園機能部分とは何なのかとか、認定こども園自体が複雑なので、なかなか一言で言い表すことができないのですけれども、「機能」が付いてしまうと、幼稚園の機能とは何だと、お母様は思われたようなので、ここも「幼稚園の部分」として「機能」という言葉を抜いてしまいたいと思っております。

続けて全部申しますと、1ページ目をご覧ください。問3になりますが、少し細かいことですが、「3 その他」とあり、カッコが下にあるので上に移動するよう修正したいと思います。

次は「問6 保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をお答えください。（1つに○）」ということで、母親、父親と回答区分が分かれるのですが、市としては、母親と父親の両方に○を付けていただきたいのですが、「1つに○」とあると、どちらかに○を付けなければと解釈もできるということで、ここも「父母それぞれ1つに○」というような形で、両方に○を付けていただけるような説明に変えさせていただきたいというところです。

次は2ページ目をご覧ください。問9の回答で、1と2でフルタイムへの転換希望を聞いているのですが、その後に実現できる見込みがあるとか、実現できる見込みがないというところで、ちょうどパートの方の中にフルタイムを希望している方がいらっちゃって、実現できる見込みと書かれてしまうと、少し違うのではないかという意見があったので、こちらを検討した結果、希望がかなう見込みがあるとか、和らげる表現に直したいと思います。この決定についても、後ほどご意見があればいただければと思います。

それと12ページの間45も先ほどの最初の問いと一緒に、育休の取得状況を聞くのですが、これも「1つに○」となっているので、これも母親と父親のどちらか1つに○と誤解を生む表現となっているので、これも母親と父親のそれぞれに○を付けていただきたいというところで、「父母それぞれ1つに○」というような表現に変えたいと思いますが、当然委員さんの中でこういった表現がいいのではというものがあれば、ご意見をいただきたいと思っております。

会長

はい、ありがとうございました。色々事前に行ってみると気づくことがありますね。皆さんも事前開封をされて色々お気づきの点があったかと思っております。この場で説明を受けて、これから約20～30分、かからないかもしれませんが、お気づきの点、アンケートの番号はどこからでも良いですけれども、ありましたらご

発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

皆さんがお考えの間に、実は私も昨日家族にやらせてみたら、感想としてあったのが、非常にすっきりしているということと言われて、答えやすい、内容的には、言葉を色々回答しやすいように考えたのだな、という事はわかりました。そして今、就学前児童の調査票を見ていただくと、先ほど事務局から説明のあった、問3のカッコの位置は確かに指摘がありました。カッコの位置がその他のすぐ後に付いていないと勘違いしてしまうというところ、これは皆さん気づくところだと思います。それから司会しながらですけれども、11ページの選択肢の中に「児童会館」がありますが、八千代には児童会館があるのでしょうか。

事務局 この回答について、これも後ほどご意見をいただこうと思っていたのですが、今こうして出たので答えさせていただきます。児童会館があるかないかというのは後ほど担当から説明させていただきます。ここの回答の選択肢ですが、放課後子ども教室や学童保育所、ファミリー・サポート・センターの状況を主に聞いて、他の自治体などですと、児童会館や公園や図書館などを、その他に含んで選択肢を作っているところもあるので、八千代市も極力選択肢を少なくしたいという観点から、7番以降を「その他」に加えて、「その他」としてまとめたいのですが、そのご意見をいただきたいということと、今話にあった児童会館について、担当から。

事務局 児童会館についてですが、今現在、八千代市内に2か所ありまして、高津地区と村上地区にあり3歳から15歳までのお子さんにご利用いただける施設になっています。

会長 ありがとうございます。以前、市民代表の方が児童館を作ってほしいという声があったので、その数等の関係かと思ったものですから。調査票には様々な工夫がされているのですが、回答すると考えた時にどうでしょうか、ということですが、委員の方からお考えいただいていると思いますが、先ほど事務局の提案を確認していきたいのですが、保育所と保育園という言い方は紛らわしいので、保育園で統一した方がいいのではということですが、これは今のようご指摘に対して、保育園に統一でいい、ということ。理由は紛らわしいからということ。それから、認定こども園の説明がありましたが、これは「幼稚園機能の部分」ですが、この機能という言葉を取った方がわかりやすいのではということですが、これは関係の委員の皆さまにお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。

戸巻委員 良いと思います。保護者の方に理解してもらおうというのが第一だと思いますので「部分」にさせていただいて構わないと思います。その後の設問13番、19番、20番も同様の表記にした方が、問13では認定こども園（保育園）認定こども園（幼稚園）となっているので、統一感を持たせたほうがわかりやすいのかなと。問13、問19、問20の認定こども園（保育園）と書いてあるので、「部分」

という表現を使うのであれば、その部分も「保育園部分」、「幼稚園部分」と記載した方がわかりやすいのではないかな、と思います。

会長 今回の確認は、今見ているものに「部分」という言葉を入れたほうがいいのかということですね。

戸巻委員 そうですね、最初に機能に部分を入れるのであれば入れるべきですし、取ってしまうのであればこもなし。統一した方がいいのかなと思います。

会長 他の委員の皆さんはどうか。統一性を持たせると回答しやすい。

柿沼委員 例えば、表紙の裏側に、認定こども園の定義が掲載されていますけれども、こども幼稚園と保育所の機能や特徴を持つという説明ですが、こういったところの「機能」という表現はどういった意味でしょうか。

会長 今、4番目に認定こども園の説明が書かれていて、非常に簡潔に認定こども園とはどういうものであるかということが書いてあるのですが、ここにもよく読むと機能という言葉があって、その説明が、この場合、機能を取ってしまうと「幼稚園と保育園の特徴を持ち」となり、大人が読むと機能と特徴と両方あったほうが読みやすいです。ただし回答するには統一性を持たせたほうがいいのか、あるいは最初のお読みくださいますところだと、何を指しているのかということが逆にわからなくなるというところで、この辺は色々意見を聞いて、大方この方がいいのでは、というまとめができればと思いますが、もし難しければ意見を色々出していただいて事務局でよりふさわしいものを選択するという行い方を取りますので何かこういうものがあるのかという議論は重要ですから。今お話いただいた委員の柿沼さん、どちらがいいというご意見ですか。

柿沼委員 これは認定こども園の定義としては、この通りだと思いますので、幼稚園と保育所の機能を併せ持つということが認定こども園の特色ですから、一律に「機能」という言葉を取って統一性を持たせるとなると、この説明は成り立たないのではと心配に思いまして、こういったところは斟酌していただければと思います。

会長 ある意味で、この説明をすべての回答者が読むとはっきりするのですが、同時に回答者が混乱しないようにするためには、短く、「機能」という言葉がない方が理解しやすいということもあるのかもしれない。両方あるので、実際にはアンケートに回答された方の意見をある程度尊重するとなると、あまり余計な情報がない方がいいのかもしれない、一方で、認定こども園の説明にはそのような言葉があってもいいのではないかというように、両方成り立つように思います。同時に解答欄のところは統一性を持たせたほうがいいのかという最初にご指摘もあったので、その辺は保育園、幼稚園と書くか、保育園の部分なのか、幼稚園の部分なのか、そのことは検討事項として、今は残しておくということで今の件はよろしいですか。何かあれば自由に言っていただいて。

古澤委員 機能というのが何で、特徴というのは何なのかというのが、多分お読みになる方

一人ひとりにとって違ってしまおうとそれが回答に影響してしまうと思うので、そこをもっと平易な表現に、もしできるのであればしたほうが、日本語として平易なほうが答える方の精度が上がるのではないかと思います。

会長 幼稚園と保育園の機能や特徴、これをより専門に携わる人にわかるように説明するとなると、どうですか。一般的に幼稚園と保育園は何が違うかというのは、一般の人はどう理解しているのかという議論になってきますか。

古澤委員 機能という言葉は、何となく皆同じ認識を持つと思うのですが、特徴と書かれた時に、特徴とはなんだろうと。あまり気にせず読み進める方が大半かもしれませんが、そこが気になるので。

会長 はい、ありがとうございます。今のご指摘も貴重なので、実際どうしたらいいのかをより深く考えることにして、より良いものに、最終的には事務局のほうで判断すると思いますので。色々ありがとうございます。今のようなご意見は有難いです。

では他に、まずは事務局から指摘があった部分を行っていくと、カッコの件はよろしいですね。就学前児童の1ページの間3にあるカッコの位置をその他に付けるようにしたほうがいいたろうと。

もう一つ指摘があったのが、問6、1つに○をとというのは確かに読み方によっては戸惑う方もあるのだろうということで、先ほど事務局の説明は、父親母親それぞれに○をとあると間違いはありませんね。それが同じようなところが何か所かあるので付けたほうがいいということです。これもどういう言葉を補うかは別にして、わかりやすくしたほうがいいということで、皆さん賛成と理解してよろしいですね。その他は、2ページ目の問9の「実現できる見込みがある」という表現をこのままがいいのか違う表現がいいのか、この辺りのご意見を色々お考えいただいて「フルタイムへの転換希望はありますか」の質問に対して1と2のそれぞれの文の終わりに、「実現できる見込みがある」、「実現できる見込みはない」。事務局が先ほど言い換えたのはなんでしたでしょうか。

事務局 「希望がかなう見込みがある」です。実現できるという表現は、自分のせいではないけれどなれないという、少しきつい言い方かもしれないという指摘を受けたので、問いに転換希望とあるので希望がかなうという表現がいいかと思いましたが、委員さんで他にご意見があるかどうかをお伺いしたいと思います。

会長 どうでしょうか、皆さん。

柳委員 これは知りたいということですか。転換希望があるかどうかをアンケートの回答として知りたいということでしょうか。

事務局 そうですね、これで量の見込みが変わってくるので。

事業者 名豊の大川と申します。こちらの問9のフルタイムへの転換希望につきまして、例えば今パートタイムで、フルタイムまではいかないけれどもというところ

の、今お子さんを預けている方が、もう少し時間を延ばしてフルタイムに行きたい、または行った方がどれくらいいるか、という設問になります。今の働き方から希望の働き方になった場合、どれくらいニーズ量が変わってくるのかといったところを把握するための、基礎となる就労を把握するための設問になっております。

柳委員 数だけで、希望があるないだけではダメなのですか。

事業者 そうですね、時間というところも重要なのですけれども、わかりやすい話ですと、働いていない方がいるとして、父親が働いていて母親は働いていないとか、ただ今後は働きたいという方、問10の3番で「1年以内に就労したい」というところがございます。これは時間を書くところもあるのですけれども、今は働いていないけれどもいずれは働きたいという方がいれば、それは新たな保育ニーズが出てくるということになりますので、その変化がどれくらいあるのかを把握するために必要な設問になります。

会長 私も今の説明を聞いていて、ご質問の意味が、「希望がある」というのと「希望がない」というもの。希望があるがという、1と2の違いが後段の文の希望があって見込みがある、希望があるが見込みがないということの2つの分け方ですが、もしも希望だけ聞くのでしたら、「希望がある」か「希望がない」か、そのうえで希望があるけれども実現できる見込みがあるかどうかを聞く回答がしやすくなる可能性があるようにも感じられます。これは、あくまでもこう変えるべきだとか、そういうものではなく、今の質問の意図は、回答者にとっては見込みがあるかないかは別として希望を持っていることを知ってほしいという場合は、前段の方の気持ちが強い、ですが、それをすると選択肢、回答が増えてしまうことになってしまいますね。その辺りは調査の目的との関連でどう入れるかということですね。回答者は迷う可能性がありそうな気がしますね。ここは先ほどから言っているように、項目を変更とかいうことではなくて、回答しやすいかどうかのポイントですから、将来データを基にしてどういう施策を作っていくかということに関係する重要な項目であるということを前提に、どう尋ねるのがいいかということですね。よろしいですか。意見等がなければ、また後でも結構ですけれども。回答しやすいのかどうかを役所の関係者が行って見た時に、行った立場の人の場合、ナーバスな部分があり、こういった表現がいいという思いがあるのですが、実現するかどうかわからない部分もあると思います。調査の中でなぜ知りたいかというところがしっかりしていると良いのではと思います。色々な解釈ができそうな設問です。他にはどうでしょうか。

柿沼委員 先ほどご確認いただきました、「父母それぞれ1つに○」その文言に変えるという点なのですが、ひとり親家庭もあるのではということをお考えますと、無回答とひとり親家庭の見分けがつかなくなる気がしますがいかがでしょうか。

会長 これは、作成されている会社の方がおられるので、その方に伺いますが、今の質問はいかがでしょうか。

事業者 問6について、間違っただけをされて、ひとり親の方が、2つに○をされるのではないかと、ということですが。

柿沼委員 そうではなくて、回答なしなのか、あるいは回答が必要ない状態かということではいかがでしょうか。

事業者 ひとり親家庭につきましては、問4、問3で国のニーズ量の算出の手引きというのがございますが、この中で、問3で回答されていない方で、問4の2の回答をいただいている方については、ひとり親家庭など「家庭類型」という用語で呼んでいるのですけれども、その際、こちらの集計の際では、ひとり親家庭でございますので、どちらかに○、片方に○を付けることとなります。そういったところは、集計としては無回答から省くといった処理をさせていただきますので、その方々の無回答が増えるということはないです。

会長 はい、ありがとうございます。回答に応じてコーディングしていくときにわかるということでした。今、先生がおっしゃったようなことが、仮に父親だけの場合は母親に○は付いていないでしょうから、そういう統計上の誤りも、細かく見ることのできるというご説明でした。では他には、事務局から挙げていただいた例は、すべて触れましたか。

事務局 もう何点かあります。

会長 発言してください。

事務局 これも、行っていただいたパートさんのご意見ですが、子育てなどで忙しいため回答する時間帯が夜になる事が多いということで、そうすると1枚目をとばしていきなり調査票から始める方もいらして、これは何の目的に使うかわからないとおっしゃる方がいらしていました。そういった方は、多くはないのでしょうか。1枚目を飛ばしていきなり調査票に取り掛かる可能性もあるので、場所を変えてもしょうがないというところもありますが、もう少し、表紙の目的の部分の文字を大きくしたり、誇張すれば目に留まるのかどうか、見開いてすぐに事業内容が書いてありますが、ご覧くださいというところをもう少し大きくしたりして目に留まるようにしたほうがいいのか、それともこのままでいいのかなど、意見があればいただきたいのが1点。

それと、この表紙に所要時間を入れてもらいたいということがありました。行う前に大体の時間がわかれば、その時間ができた時に行う形になるので、調査票のどこかに「大体この調査票は○分かかります」という文言を入れたいと思っておりますが、その辺りのご意見も伺いたいです。

もう1点、11ページ目になりますが、こちらは就学児童のアンケートでも、このような設問は出てきますが、皆さんがこれを見ていただいたときに、小学校低

学年と高学年のうちは、「それぞれ放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか」という設問で、週〇日と入れていただくのですが、これを週の5日の内の内訳として捉えるかどうか、どう解釈されたのかを聞きたいのです。例えば、学童に週5日過ごさせたいと思う場合は、週5日、このうち週2日を学童に行った後に習い事などに行かせたいという場合、ここにどう記載していただけるのかを知りたいのです。ここで記載していただきたいのは、学童は週5日使うので「週5日」と記入していただき、習い事は週2日行くので「週2日」と記載していただきたいのですが、それを一週間の内訳として捉えると、習い事に週2日通うため、学童は週3日という書かれ方をしてしまうと、学童のニーズが2日間減ってしまいます。ですので、この設問で皆さんがどう解釈されたのか、また、その解釈によっては注意書きも必要かなと検討したいというところがあるため、ご意見をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

会長 まず1点目は、表紙のところに、目的をもう少しはっきり簡潔に書いたらどうかという指摘があったようです。何の調査かわからない、今見ていただいている表紙は、下線を引いて「平成32年度(2020年度)から5か年の保育所や学童保育所などの必要な整備量等の把握を行う必要があるため」とあります。ここがより強調されたキャッチコピーみたいなものをどこかに載せるのか、これで十分わかるとか、ご意見色々あると思いますが、非常にわかりやすく書いてあると思います。そういうご意見は多いと思います。しかし、更にはっきりわかるようにしてほしいという指摘ですので、これについてどうでしょうか。

柳委員 私の事業所にも、厚生労働省とか色々なところからアンケートがたくさんくるのですが、そういうところに必ず書いてあるのが、このアンケートを基に子育て支援をもう少し充実させ、事業所の皆さまにもそういう部分もわかっていただきたいのでご協力をお願いします、と書いてある。これは行政の主観で〇年度の事業計画を立てたいから書いて、というのはわかるのですが、その時間を割く、忙しいお母様方にとってみたら、これで保育所が足りないこととか、保育園が近くにないこととか、学童のこととか、少し良くなるのかなということが、先ほどおっしゃったような目的でも構わないのですが、少しここに注釈を入れていただくと、これは役所のためではなく、私たちの生活のためにアンケートを作成してくださっているのだ、ということがわかった方が回収率も上がるのではないかと思います。

会長 はい、今のうちに、この調査で、八千代市の保育環境、学童保育の状況、子育て支援環境が良くなるためにご協力ください、そういった平易な言葉で一文を入れた方が、しかもそれを太字にするとか、良くするための調査なのだと強調してはどうかという意見です。うなずいている方が多いので参考にさせていただきたい。それから、所要時間を入れた方が取り組みやすいというご意見ですが、全体が何

ページもありますが、時間は何分くらいですか。

事務局 はい、個人差はあると思いますが、就学前児童は15～20分、多いと25分くらいかと思うので、20分程度を見込んでおります。就学児童ですと、設問数やページ数が少ないので、こちらは10分程度で回答できると見込んでおります。

会長 実際にあつた方が見通しが持てるということであろうと思いますから、入れた方がいいのでしょうか。

丸山委員 20分と書かれると、逆に回答したくなくなる。7ページにあと半分と書いてあるので、この表現にした方がページをめくる気になるのではないかという気はいたします。

会長 この絵で、あと半分というのはいいですね。心理的な影響を考えると10分は大したことないですが、倍になるともういやという気持ちになるかもしれません。そう考えると正直に書かない方がいいのかもしれないかもしれません。こちらも検討してください。

先ほど確認した、この調査を協力することが自分のためになるという部分は多くの委員の方々が賛同し、時間も心理的なものに配慮したものを入れるということ、それともう1点あつたのが、11ページの「週〇日」という回答ですが、これは先ほど説明いただいたように、回答者が途中で回答しながら、利用日数とはどういう意味なのかを考えると戸惑うのであれば、例を挙げた方がわかりやすいのかもしれないかもしれません、どうでしょうか。

井元委員 文書の部分でいえば、どのような場所で過ごさせたいと思いますかの後に、それぞれ利用を希望する週あたりの日数を数字で記入してくださいと書くだけで、大体わかると思うのですけれども。

会長 それぞれ利用を希望する日数をお書きくださいということですか。

藤田委員 私も学童保育を子どもが利用しているのですが、これを見た時に感じるのですが、学童保育所に通っているお母さんたちは多分学童保育所は週5日と書くと思います。他の習い事とかは学童に通っていない子が書くのかな、と捉えて書くと思います。学童保育に行っている子は、習い事に行ってから学童保育に戻って学童保育所で過ごすなど、放課後教室に学童も併用している子も、最終的には学童保育所に帰ってくるというパターンが多いので、このままでもご記入していただけるのではないかと思います。

会長 はい、このままでも回答しやすいというご意見もあるし、先ほど言われた、それぞれの時間を書いてくださいというようなものもあります。対立するものではなくて、回答しやすいのはどういう書き方かというところで今後検討しますので、いい意見だと思います。事務局から言われた検討点は終わりましたか。

事務局 大丈夫です。柳委員からございました、事業者のために行うのではなく、市民のため、皆さんのために行うのだよということは、以前会長からいただいた意見

で、それを封筒に入れてはどうかという意見があったので「皆さんのためのアンケートです」というのは調査票がいいのか封筒がいいのか、どちらに入れた方がいいか、ご意見を伺いたいです。

会長 回収率を上げるということで、無作為に抽出された方々、かなりバランスよく抽出する作業の説明はありましたけれども、その方々が概ね回答いただけるように督促状をしかるべき時期に礼状とともに送ると、これが具体的な回収率アップの方法で、その前にアンケートを読むか読まないかということ考えた時に、何か協力を促す言葉がどこかにあると、アンケートをやろうという思いを持つ方もいるかもしれない。ですがあまり過剰に入れすぎてしまうと、こんなこと行うか、となるかもしれないですし、その辺のさじ加減は難しいとは思いますが、私は何かあった方が回答するかなと思います。目的の中に、これは皆さんのお子さんの、八千代市の保育環境を良くするための調査だとわかると、ですから難しい言葉でなくて、改善するため、良くするための調査にご協力くださいというような言葉があると良いと思います。どうですか皆さん。

古澤委員 他のことでもよろしいですか。設問の中身とすべての前提のような質問を2つさせてください。全体の話だと、当然回収率を向上させるというために設問に答えやすく、回収しやすい形で設問を設定し答えていただくということがあると思いますが、回答してもらったものに、製本時に削除するとおっしゃった、必須・任意・市独自という中で、これに答えないと無効になるというような設問があるのか。回収率の向上も重要だし、サンプルを集めるための有効な回答数を増やすことも大事だと思うので、その考え方を伺いたいのが1点です。もう1つが、設問の中で未就学児の調査票の8ページの間35の中で、「お子さんが病気やけがで幼稚園や保育園などを利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法とその日数」とありますが、年間の日数は、1年間で何日あったかというのは、なかなか正確に覚えている方は少なく、恐らく回答される方は手帳を見ながら回答する方も一部いらっしゃるかもしれませんが、何を確認したらいいか、あるいはこの数字が正確かどうかというのは、正確じゃないとしてそれがどう影響を与えるのか、その2点を伺いたいです。よろしくお願ひします。

会長 はい、では後の質問から、この日数が意味しているものは何か、説明をお願いします。

事業者 はい、私からご説明させていただきます。こちらの問35については、病気の際の対応についてところで聞いている設問でございます。こちらについてはまず問34で、利用ができなかったことがあったかどうかというところで、あったと答えた方に対して、その対応方法としてどうしたかというところで聞いております。その中で病後児の対応を聞くというところでございますので、実際のニー

ズ量の把握としましては問36になります。ですので、その際に実際誰が就労していたか休んだかという内訳を確認するのは問35になりますので、実際のニーズ量のボリューム把握のための設問ではありません。実際にボリュームを把握するのは、問36です。国としましては、誰がどれくらい、内訳として休んだかを把握したいということで、現状としては母親が休むことが多いだろうと想定されますが、それがどれくらいの日数あるのか、年間の方が答えやすいだろうと、年間を選んでいる状態でございます。以上でございます。

会長 2問が繋がっているということですね。もう1点は、1ページ目の凡例を見ていただきますと、必須・任意・市独自と分けられている、この関連のご質問でしたね。要するに、これがわかりにくいという意味ではなく、もう一度お願いできますか。

古澤委員 そうではなくて、この質問に答えなければ無効になりますというような、必須回答項目について。

会長 凡例の必須というものが、回答を必須とするという理解をすると、任意であれば答えなくていいのかと考えてしまいます。そうすると市独自というのはどういう意味かとなるので、もう少し言葉を補ったほうがいいのではというご意見でございます。

事務局 これは、製本の際はすべて削除しますので。

古澤委員 そうなった時に、例えば問1を答えなかったら、他を全部答えていても無効ですとか、そういう考え方があるのかということです。

事業者 おっしゃる通りです。こちらのニーズ量算定の基礎となる考え方としては、家庭類型をまず出して、その家庭の状況で保育の基準がありますので、それを出し、各事業のニーズ量を算定します。ですので、事務局から話がありましたが、就学前児童ですと、問1から問10で、今は両親ともフルタイムで共働きの家庭から、両親ともに働いていない家庭まで、家庭のタイプを分けて、それが今後の希望の家庭類型をベースに基準を決め、そこから保育園なのか、幼稚園なのか、あとは病児・病後児保育なのか、一時預かりはどうするのか、を集計するので、家庭類型の算定に必要な項目について、回答いただけないと、ニーズ量の分析はできないということになりますので、最初の設問に回答いただけないと集計はできないということになります。それをベースに各事業の必須項目を聞いていくので、家庭類型に回答いただいたとしても、希望するところに無回答ですと、その方も無効となってしまいます。

会長 調査の設計上、そうなっているということですね。ですから回答いただく方には全問回答していただくよう促すような言葉がもしかしたら必要かもしれません。好きなところだけ回答してもらっても困るということです。

武田委員 先ほどの、一番初めのページですが、まず開けた時に、この内容を読んでしまっ

たら重たくなってしまうので、すぐ理解できないこともあるような気がするの
で、これを最後に持っていった方が回答しやすいような気がします。

会長 ありがとうございます。心理的なもので、回答者の負担にならないように重要な情報源ですが、調査の後ろに置いた方がいいのではというご指摘です。検討事項として記録したいと思います。他はよろしいですか。

田中委員 まず、調査の人数ですが、4,000人ということで、4歳～5歳が2,500人、小学校1～4年生、他のところでは4年生でなく6年生までを対象に行っているところはあるようですが、5年生と6年生を除いた理由と、4,000人という人数が25年度の調査時より人口が増えているのではないかと思うのですが、同じ人数で良いのか、また他の市と比べてどうなのか。今は0歳～12歳までは2万3千人と把握しているのですが、就学前児童と就学児童が大体半々で、そうするとこの割合でいいのかどうか、どうお考えでしょうか。

事務局 ベースになる児童ですが、0歳～小学4年生まででおおよそ2万人、これをベースに必要な標本数を出すのですが、統計学的な計算式があり、信頼度と標本誤差というのがあり、通常ですと誤差が3%程度であれば、とても優秀な調査だと言われているところが、八千代市では2%台で設定して標本数を出しているので、かなりそちらに関しては、通常の計算式で求められる標本数よりは多く標本数をとっていることになります。

それと、4年生までにした、要するに5,6年生を対象にしていないというのは、前回調査でも4年生までだったということで、経年比較を見るうえで4年生までにしたというのも一つあるのですけれども、5,6年生になると、主に学童になってくるのですが、極端に実績が減ってくるということで、把握しなくても実績でニーズを予測できるということと、必要標本数を5,6年生に配分するのであれば、それを4年生に割いて、そこのニーズをもっと厚く把握したいということから小学4年生までとしました。

会長 はい、こちらも時間があれば議論したいところですが。今の説明は十分に伝わってきたのですが、どう考えたらいいかというところは色々議論になりそうですから。実績に基づいて推定しようという考えですが人数把握すると意外に実績とは異なるデータが出ることもありえると思うので、その辺は将来変わっていく可能性もあるので、それも含めて。ただこの調査はおわかりのように、概ね了解が得られればすぐ実施を前提にした計画で、計画上新たな学年を加えるというのは少し無理があるかもしれません。ですから今委員がおっしゃったことは、十分にその部分をどう行って把握するかということ課題にしておくことも重要だと思しますので、記録していただければと思います。よろしいでしょうか。

丸山委員 就学、未就学にもいえるのですが、放課後の過ごし方を聞いているところで、学童保育所が選択肢に入っていますが、本市の中にも株式会社が行っている学童

保育所があると思います。最初からそこを希望する方の場合、市の事業から外れると思いますが、その明記が必要かどうかという疑問です。以上です。

会長 今の点、どうですか。

事務局 民間が行っている学童、法律に基づいて届け出されて初めて学童という扱いになりますので、民間に委託している学童はあるのですが、届け出されていない学習塾やスポーツジムが行っているようなところは、学童の定義には入らず、習い事の部類に入ると思います。

会長 利用している保護者が、その辺りを区別できるかどうかというところがあるかもしれませんね。民間の施設だけ学童に行っているということの説明をすると回答が変わってくるかもしれません。今のところも設問の中に工夫ができるのであれば考えていただきたいです。

事務局 そうすると、事業の説明のところで、そういった類のものは除きますという形で、明記できるかと思います。

会長 ありがとうございます。

井元委員 無償化について触れられているのですが、説明が少なすぎて無償化が予定されているけれどもどう考えているかというのは、多分皆さん答えられないと思います。国から出ている、今わかっている資料だけでも添付してあげるだけでだいぶ違うと思うというのが1点目。

2点目は、その下の問いで、○を付けた事業のうち、最も利用したい事業を数字でお答えくださいとなっていて、例えばここで8番を選んだ方というのは、その下の設問は当然「はい」となり、設問がかぶっているように思いますが、問22は強調しているとは思いますが、必要なかと疑問に思います。

それと、一時預かりに関して、問38で「保育園や幼稚園の一時預かり」とありますが、幼稚園で一時預かりしているところがありますか。そこが疑問で、八千代市内では保育園だけしか行っていないのか、また保育園や幼稚園以外で一時預かりを行っているところがあるのであれば、保育園や幼稚園等明記せずに一時預かりというくりにしないと、保護者も一時預かりと預かり保育に関してわからない方にとっても、ここは間違いが出やすいところだと思うので単純にここは一時預かり、それとは別で保育の定期利用という区分けが良いかと思います。

一時預かりに関しては、前に1ページ目の裏に書いてあるので、説明は詳しくなくていいものかもしれないのですが、ここも結構わかりづらいところと思うので要説明なのかと思います。

それと、最初の間1、学区で自分の地区がわからない方というのはいらっしゃるのですか。大和田新田の一部で自分は大和田地区なのか高津・緑が丘地区なのかというのが、まだ生まれたばかりの家庭でわからない場合は、どこの何丁目という表記で、こちらで区分けするという訳にはいかないのでしょうか。間違え

るとデータ自体も不正確になってしまうかなと思います。以上の件をお願いします。

会長 では今、大事なご指摘がありましたので、問1のお住まいの地区を選択するときに明らかにわかる場合はいいのですが、どちらか迷う場合があるようですから、それを明確にするような情報を書いてもらった方がいいのではというご指摘です。これは検討できるのではないのでしょうか。

2つ目は、問20の無償化に関するところに※が付いているが、更にもう少し情報があれば、添付するなどした方がいいのではということでしたが、ここで言われている情報というのは、どれくらいの量なのか。

井元委員 少なくとも3、4ページにわたるかと思うのですが、1ページにまとめたものを付ける方が良いのかもしれませんが、まだわからない部分もあるとは思いますが、少なくとも今、国が出している資料を明示して、例えば幼稚園の時間外が幾らの補助があるのかとか、給食費は入らないのかということとか、あったと思いますが、そういったものを付けて、もう少し詳しく説明を行い、保育の必要性の認定を受けた子どもを対象にというのが、実際八千代市だと、どの程度が認定を受けるかなども詳しく指し示してあげないと答えづらいと思います。

会長 はい、この辺は明確に提示できる部分、国と市が共通している部分、まだ政策的に実施するかどうか微妙な部分は書きにくいと思いますが、これだけでは回答しづらいのではないかとご指摘ですから、情報の提示を検討してはどうかということでした。もう少し情報を正確に、ということです。これは事務局で検討ということによろしいでしょうか。

それから、9ページの一時預かりについて、これも1番の回答項目だと理解に困る場合があるのではないかとご指摘でした。1番の書き方の指摘でしたが、幼稚園で一時預かりをしているところがあるのかというご質問からのご発言だったと思います。1番の項目の書き方について検討する、この辺りはよろしいでしょうか。詰めていく作業が必要かと思いますが、なにかございますか。

事務局 一時預かりで、幼稚園で一時預かりをしているところがあるかというご質問ですが、表紙の裏の「⑮ 幼稚園等の一時預かり」をしている幼稚園は市内にはございません。「② 幼稚園の預かり保育」、通常の教育時間の前後に預かり保育をしていただいている園というのは実際にごございます。市の現状としてはそういう状況でございます。

会長 ということは、八千代市で調査をする場合は、幼稚園という言葉を除くと、問38の設問の目的、質問の意味は問題の設計上変わらないですか。

事業者 はい、こちらは現状を聞く設問でございますので、省いても問題ないと思います。

会長 はい、では今のご指摘、正確にするという意味で現状からの回答にする、ということですか。

事務局 今、八千代市内の状況というところでお話をいたしました。もし可能性として他市の幼稚園の一時預かりを利用している方もいる可能性もあるかなというところで、この設問についてはその辺りも含めて検討させていただければと思います。

会長 調査の目的、設計上できるだけデータを集めたい、しかも八千代市の子育て支援環境を良くするということから、そういうところから勘案して表現を検討するというご了解ください。

では、もしよろしければ、予定の時間を大幅に過ぎたので、まとめに入りたいと思います。よろしいでしょうか。

では、今日ご指摘いただいた点は主に役所の関係者の方々に、試験的に行っていたご指摘いただいた点が主な論点になりました。いずれも重要な指摘だったと思います。それらの指摘について、漏れがあるといけませんので記録していただいています。大きなところでは、この調査が何のために行われるのかを、できるだけ調査協力をされる市民の皆さんにメッセージとして届くようにするために、そのための工夫を、もう一工夫していただきたいということでした。それと選択肢に関係するところは具体的にし、回答者に迷いが生じないよう字句を補いそれを行いましょうということでした。それと、回答者の心理的な影響を考えて、細かい説明や言葉についてはアンケート用紙のどこに配置するか検討いただくということです。

それ以外にも、調査の対象者について、事務局の説明の中でもありましたが、7圏域、そして年齢別に分けた、いわゆる統計資料の抽出の仕方を何段階か設けて、そしてできるだけバランスよく対象を集めたいということで進められている、そのことが、どのような結果になるかある意味で今後の政策に反映されると思います。同時に指摘があった、5年生、6年生の問題、こういう指摘についても、しっかり今後のことに生かしていただきたいと思います。

以上のことをまとめとさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

3 その他

会長 それでは、最後にその他に移ります。事務局から私のまとめに関して、あるいは何かございましたらお願いします。よろしいでしょうか。

事務局 そういたしましたら、次回の会議の日程についてですが、来年の3月15日またはその翌週辺りを予定しておりますが、詳細については、改めてご連絡し、確認させていただきます。あらかじめ、その辺りの時期でご都合の悪い日がわかっている場合には、後ほど事務局までお知らせください。

議題につきましては、ニーズ調査の結果報告と、保育所等の利用定員の設定について予定しておりますので、よろしく願いいたします。

会長 それでは最後になりますが、今日いくつかの論点、結論をこの場に出せたものもありますし、検討になっている部分もありますが、アンケートの実施から考えて、皆様に集まっていたり、あるいはメール等で審議するには時間的に無理があるように思うので、その点については議長の私と市の方に任せていただくということによろしいでしょうか。ありがとうございます。

4 閉会

会長 では本日はこれで議事を終了とさせていただきます。議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。